

ムクドリ (ムクドリ科)



ナンキンハゼの実を食べ 森づくりにいそしむ

ムクドリは「共生の森」で年間を通して普通に見られる鳥。食べ物の少ないこの時季も「共生の森」に居残り、残り少なくなったナンキンハゼの固い実を食べていた。

「共生の森」では植樹された木以外に自然に数を増やしている樹木が多くみられる。鳥も「共生の森」森づくり活動の主役の一員。

見かけた 生き物・植物



アオジ



ホオジロ



ツグミ



ヒヨドリ



活動していた アブ



忙しい ハクセキレイ



冬毛で もこもこ



タヌキの糞にはセンダンの実

冬芽(とうが・ふゆめ)と 葉痕(ようこん)



ヒツジ系のオニグルミ

いろいろな表情で春を待つ



イヌビワ



シナサワグルミ



マルバアオダモ



ハゼノキ



アオギリ



シンジュ

猛禽類に襲われた



キジバト



ヒドリガモ

春も近い



ヒメオドリコソウ



スイセン



カラスノエンドウ



ウメ

寒さが厳しいが 春も近い!

台風 21 号による樹木の被害



根には瓦礫が

根こそぎ倒れた木



枝の折れた木



折れた枝に花

台風 21 号により、いろいろな被害を受けた木がみられる。根こそぎ倒れた木の根は土の中の瓦礫を抱え込んでいて、ここが産業廃棄物の処分場であったことを思い出させる。

外見上、被害を受けていないように見える木も被害を受けているよう。梅の木は今年、花を咲かせていないものが多い。折れた枝の部分のみ花を咲かせている。今年は植物の回復や、新たにやってくる生き物が楽しみ。

見かけた 植物・生き物



折れた枝に咲く ウメ



タラの芽



セイヨウカラシナが出てきた



シュロカヤツリ



ナワシログミ



ハランの実

ツグミ



もうすぐ北に帰る



冬芽を食べるムクドリ



ノスリ



ヒメオドリコソウ



シロバナタンポポ



オオイヌノフグリ



スイセン

もうすぐ春



春のにおいが



乾いた景色が広がるが
ウグイスが鳴き始めていた

「共生の森」の植物 【植樹】



「共生の森」に生えている植物は、大きく分けると4つに分かれる。最初に残土に交じっていたもの。次に風で運ばれてきたもの、鳥に運ばれてきたもの、そして人が植樹したものに分けられる。

今回は年に1度の植樹祭。今年で16回目を迎え、参加人数367名、植栽：20種960本を植樹した。直径3mの各サークルに低木・高木を混ぜて12本、計80サークルに植樹。サークル植えの実施は草刈りの労力を軽減することが目的。



サークル植え

見かけた 植物・生き物



こちらは自然生えの区域。奥には鳥が運んできたワシントンヤシ・手前にはトウネズミモチが見える。ススキなどは風が運んできたもの。

ウグイス



あちらこちらで鳴いていた



ノスリ



ヒヨドリ



ナワシログミ



イヌビワ



セイヨウタンポポ



ナルトサワギク(特定外来種)

ヒメオドリコソウ



ヒメオドリコソウが所せましと踊っていた

オオルリ (ヒタキ科)



数日前まで少し寒い日がありましたが、だんだん暖かくなり「共生の森」ではツグミなどの冬鳥がメッキリ少なくなりました。

ちぬみ山の東側の林を歩いていると菜の花の向こうの枝にオオルリが止まっていた。

これから山に向かう途中、「共生の森」に立ち寄ったのでしょうか。

「共生の森」では植樹祭を毎年開催し今春で16年目を迎えた。木々も大きくなり、渡り鳥たちにも林と認められたのかもしれない。

ナナホシテントウ



アブラムシを食べるナナホシテントウ



セイヨウカラシナ



ハマダイコン



ナヨクサフジ



アケビ



ナワシログミ



アキグミ

見かけた 生き物・植物



オオルリ(メス)



キビタキ



ベニシジミ



ヤマシジミ



ツバメシジミ



クマバチ



カラスノエンドウ



スズメノエンドウ



カスマグサ



シロバナカラスノエンドウ



キュウリグサ



タチヌノフリ



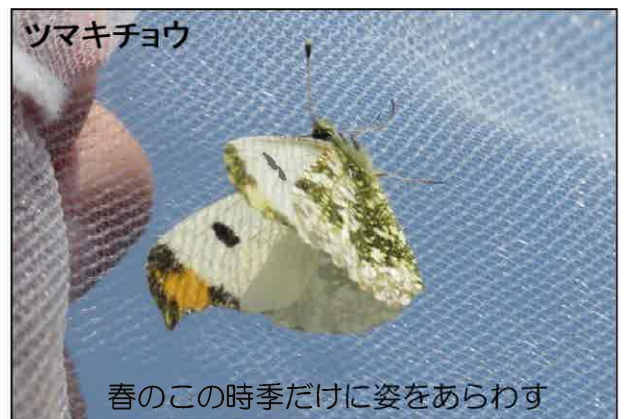
ヒメウズ



ヤエムグラ



オヤブジラミ



ツマキチョウ

春のこの時季だけに姿をあらわす



ヒゲナカバチ団子



アオヒメナムグリ



ナナホシテントウ幼虫

イシガケチョウ (タテハチョウ科)【初登場】



5月にしては全国的に記録的な暑さとなったこの日、イシガケチョウが飛んでいた。

地球温暖化により北方に分布を拡げているといわれるイシガケチョウ。大阪ではすっかり定着した感があるが「共生の森」では初登場。

幼虫の食草となるイヌビワは「共生の森」にも生えていることからここで生まれたものかも知れない。

また、この日見かけたヒオドシチョウも「共生の森」初登場。2種類の蝶は「共生の森」に登場した26番目・27番目の蝶に。「共生の森」の植物相もだいぶ充実してきたよう。

ヌートリア



道まで出て、前足でクズの茎を器用に持ち、ポリポリやっていた。葉よりも茎がお好みのよう。



ヤマグチ



ハマツメクサ



ハナハマセンブリ



トベラ



ノイバラ



コバンソウ



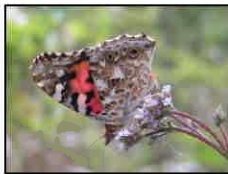
スイカズラ



チガヤ



アメリカオニアサミ



ヒメアカタテハ



シオカラトンボ



ショウジョウトンボ

見かけた 生き物・植物



ヒオドシチョウ



ゴマダラチョウ



ツチイナゴ
成虫で越冬したもの



ノラニンジン
コアオハナムグリ・アオヒメハナムグリ



ヌマガエル



コチドリ

コチドリの 巣と卵



無造作すぎて、気がつかなければ踏むところ

ヤブキリ (キリギリス科)



キリギリスの声を聞きながら植栽地の草刈りをしているとキリギリスより一回り大きいヤブキリが出てきた。

クズの葉にとまっているが植物を食べるのではなく他の昆虫を食べる肉食系。

「共生の森」でヤブキリを見たのは初めて。これだけ立派な成虫がいることからヤブキリは数年前から定着していたのかもしれない。

ハナグモ



ノラニンジンの花の上でハナグモが脚をあげ昆虫がやってくるのを待ち続けていた



ハナハマセンブリ



ウイキョウ



ザクロ



キアゲハ・ヤナギハナガサ

見かけた 生き物・植物



キリギリス



オンブバッタ



ヒメギス



ヒメギス(長翅型)



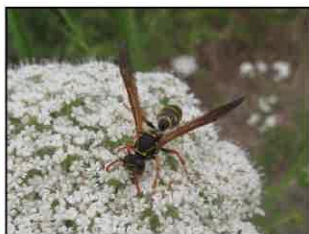
トノサマバッタ



ツチイナゴ(越冬)



モイワウスバカゲロウ



フタモンアシナガバチ



アカメガシワ



コモチイヌナデシコ



コヒルガオ



ツバメシジミ



テングチョウ



キマダラセセリ



ウラギンシジミ



シオカラトンボ



マイコアカネ



セッカ



カルガモ

イシミカワ (タデ科)



10年ほど前の晩秋に、ちぬみ山付近で見かけたイシミカワ。それ以来、毎年、秋になるとイシミカワの実を探したが見つからなかった。先日、イシミカワの実があったと聞きこの日イベントに参加すると草刈り場所にもイシミカワがまとまって生えていた。三角の葉と、かなり痛い鋭いトゲ、カラフルな実が特徴的。漢字で書くと石見川。名の由来の一説は河内長野市石見川に良質なものが生えていたこととされる。大阪にちなんだ草でもある。

見かけた 植物・生き物



マルバハッカ



ヘクソカズラ



オオイヌタデ



アレチムラサキ



クズ



ヤブガラシ



オオキンケイギク

特定外来種



オッチカタバミ



コマツナギ

トンボ受難



オニグモに捕らえられたウスバキトンボ



フモンアシガバチを捕獲したナガコガネグモ



体を斜めに寝るような雌キリギリスを複数みた



ゴマダラカミキリ



ベッコウハゴロモ



ハイロゲンゴロウ



カワウ

草刈り



草刈りをしていると飛び出す虫を期待してツバメがやってくる。

コムスジ (タテハチョウ科) 【初登場】



都市部で見かけることはなく、郊外の林周辺でよく見るチョウ。

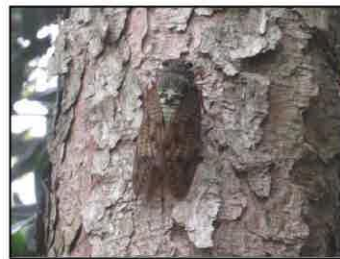
はねを開いてとまることが多く、三本の白い筋がよく目立つミスジチョウの仲間。今回は木の上ではねを閉じたところ。

コムスジは「共生の森」にやってきた29番目のチョウとなった。

危険がいっぱい



オオカマキリに捕まるクマゼミ



アブラゼミ



ツクツクボウシ

見かけた植物・生き物



ハマヒルガオ



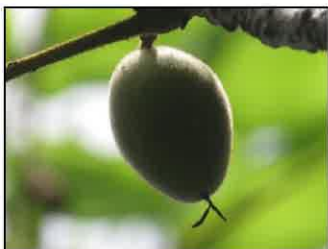
イヌビワ



マイコアカネ



ヒメアカタテハ



オニグルミ



クサギとクマバチ



ウラナミシジミ



ツバメシジミ



ムクゲ



フヨウ



サトクダマキモドキ

トビ



やっぱり海辺

ナガイモ (ヤマノイモ科)



「共生の森」内のフェンスにナガイモのムカゴがたくさん付いていた。

ムカゴは種子とは違い茎が変化したもので、地上に落ちそれからまたナガイモが発生する。種子はムカゴとは別に花からみのる。

ムカゴはナガイモと同じ味でムカゴご飯などにして食べることができる。

ナガイモは古い時代に中国から渡来したとされる植物で、よく似たヤマノイモは日本に自生していたとされる。

ギンヤンマ



「共生の森」で一番長い期間みられるトンボ



シオカイトンボを捕まえたオニグモ



ツクツクボウシ



アオサギ



カナヘビ

見かけた 植物・生き物



クズ



アレチヌスビトハギ



ニラ



オトコエシ



シュツコンバーベナ



タラノキ



キクイモ



Z池

テングチョウ (タテハチョウ科)



顔の先が天狗の鼻のようにとがることから名付けられたテングチョウ。森林性の蝶で山地では集団でいるのをよく見かける。

「共生の森」で見かけるようになったのは平成24年度から。

幼虫はエノキを食べる。冬は成虫のまま越冬し春の早い時期から出現することから今では「共生の森」で最も長い期間見かける蝶のひとつになった。

コサメビタキ



これから南の国へ海を渡っていく



キミガヨラン



ヒガンバナ



タヌキ



タイクアカネ

見かけた 植物・生き物



カリン



ミカン(鳥につつかれる)



アメリカウンランモドキ



ツマミタケ



ヤマトシジミ



ヒメアカタテハ



ベニシジミ



クロノマチョウ



ウラナシジミ



オンバッタ

トノサマバッタ



アメリカセンダングサ



シャリンバイ



ノブドウ



ホシアサガオ



アメリカアサガオ



アキノゲシ

センニンソウ（キンポウゲ科）



センニンソウの実がなっていた。実の先端に付く白い綿毛を仙人の鬚に見立てて仙人草。キンポウゲ科に属する つる性植物で葉から茎から全草毒を持つ。葉の汁が皮膚に付いただけでかぶれることも。鹿も食べない。

ところが毒と薬は紙一重。センニンソウは昔から民間療法で扁桃腺に効くとされておりネット上には、かなりの事例が紹介されている。試すには少し勇気がいりそう。

ナンキンハゼ



紅葉が見頃を迎えていた



ツマガロヒョウモン
まもなく生涯を終える



クロコノマチョウ
羽がきれい このまま越冬



ベニシジミ



ウラナミシジミ

見かけた 植物・生き物



ノイバラ



アカメガシワ



オオバン



ホシハジロ



カナヘビ



エノキ・ナナホシテントウ



タイリクアカネ



ギンヤンマ



セグロアシガバチ

ノスリ



リースづくり



自然の素材を使いリースをつくる

ノイバラ (バラ科)



木の枝にオレンジ色系の鳥のフンがついていた。よく見ると中に種が混じっている。

フンは鳥がノイバラの実を食べたもの。

この時期あちらこちらで赤く目立つノイバラの実がなっている。ノイバラは鳥に実を食べさせ分布範囲を広げる戦略をとる植物。

この戦略が功を奏し「共生の森」ではトゲが痛くて厄介なノイバラが広範囲に勢力を広げている。

見かけた 植物・生き物



タチバナモドキ (ピラカンサ) トキワサンザシ



ナンキンハゼ



イヌビワ



ハタケニラ



ランタナ



トウネズミモチ



シャリンバイ

ホオジロ



上がメス で 下がオス



タイリクアカネ



アキアカネ



ヤマトシジミ



メジロ



モズの はやにえ



ミサゴ



コナラ



ニセアカシア



クヌギ